

若手教員海外研修支援事業報告書(地域貢献との関わり)

氏 名	法文教育学域教育学系 准教授 永迫 俊郎
研修期間	2017年4月2日～2017年7月28日(鹿児島発～鹿児島着)
1. 教育研究機関	
国名及び滞在地名：	<u>アメリカ合衆</u> 国 <u>カンザス州エンポリア</u> 市
機 関 名：	<u>Emporia State University(エンポリア州立大学)</u>
2. 研修報告	
研修題目	<u>凧・気球・ドローンを用いたリモートセンシング手法に関する研究</u>
<p>本研修は次の二つの側面から地域貢献できると考えられます。(1)地理学的技能を指導学生に習得させること並びにそうした学生が教師になって教え子に伝えることを通して、本研修は二重の地域人材育成に直結します。(2) 地域産業に対して、防災・減災の観点および空の産業革命といわれるドローンとその関連技術を本研修は提供するという点で、間接的な貢献が可能です。</p> <p>凧やドローンを用いたリモートセンシング手法は地理学の非常に有効なツールで、SfMソフトを併用すれば高精細な地図化も可能で、さらに重要性が高まるのは確実です。研究に活用でき、野外実習、卒論調査といった教育面でも学生の地理学的技能を大きく伸ばしてくれると期待されます。</p> <p>自然災害の直後に地表面の状態を確認することは、現象のメカニズム解明あるいは事後対応を考慮するうえで必要不可欠です。凧やドローンそしてリモートセンシング手法に長けた研究者を火山災害や土砂災害が身近な存在である鹿児島県の地(知)の拠点・鹿児島大学に備えておくことは、教育・研究上の意義にとどまらず、地域貢献の観点からも大変重要です。また、日本国内でのKAP(Kite Aerial Photography)協会がなくなった現在、KAPを推進することは社会還元に他なりません。</p> <p>エンポリア州立大学は2006年に全米で4大学のみ指定された‘Exemplary Model Teacher Education’(教師になるためのモデル大学)です。他の3大学は、スタンフォード、伝統ある女子大、大統領が創設という特徴があるなか、一般的な州立大学の健闘が光ります。地方国立大学に属し教育学部を主担当する研修者にとって、教育学部内での教科専門の必要性および全学での教養教育の推進を考える上で絶好の見聞が今回の研修で得られました。特に地理学を専門とする身であるため、文化・社会の日本との相違も非常に興味深く、多くの方々とのご縁の賜物である生きたアメリカ体験も、地域貢献に資する財産と考えております。</p>	